

事務事業名	公共交通の確保事業	事業期間	～	年度	係内番号	03
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

計	政策番号	基本計画体系	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	高
			基本計画①	01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針		
			基本計画②	01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針		
			実行計画	13	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	0102	地域内バス交通の構築		

予算事業名	バス交通確保事業費	会計コード	01	款	02	項	01	目	07	事業	03
-------	-----------	-------	----	---	----	---	----	---	----	----	----

事務事業の概要
（簡潔にわかりやすく）
生活路線バスの利用者が減少し、バス事業者から「不採算バス路線の見直し協議の申入れ」がなされ、「茅野市公共交通あり方検討会議」や「茅野市・原村地域公共交通活性化協議会」等の議論を経て策定した「地域公共交通総合連携計画」に基づく実証運行を行い、地域にふさわしい公共交通のあり方を検討している。また、観光路線である蓼科ラウンドバス及びメルヘン街道バスの運行経費の一部を補助している。

現状と背景
（どうして）
マイカーの普及やライフスタイルの変化の中で、公共交通の利用者は減少し続け、営利事業として成り立っていくことが困難になっている。その中で、障害のある人や高齢者等の交通弱者だけでなく、すべての市民や観光客が利用しやすい交通手段の確保が課題である。

目的
対象
受益者
（誰のために）
日常生活をおくる上で公共交通が欠かせない市民及び観光客

対象
対象
（直接働きかける）
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会、バス事業者

目的
意図
（どんな状態にしたいか）
障害のある人や高齢者等の交通弱者だけでなく、すべての市民が利用しやすい交通手段のあり方を検討し、構築する。また、観光客の移動手段を確保することにより、観光振興にもつなげていきたい。

手段・方法
（どうやって）
茅野市・原村地域公共交通活性化協議会などを通じ、バス事業者・タクシー事業者などの交通事業者の連携や、市・市民・公共交通利用者・商業観光等の事業者などの連携により、地域にふさわしい公共交通のあり方を、負担のあり方も含めて検討し、構築する。あわせて、観光路線バスの運行維持のため運行経費の一部を補助する。

A	N	評価指標の作成	行政が活動することで作り出すもの				最終目標値
			指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など		
活動指標	1	路線バスの利用者数を把握する	路線バス利用者数（1日当たり）	人	利用者が増えることが、地域にふさわしい公共交通のあり方につながる	684	
	2						
	3						
変更履歴							
成果・効果は何？			指標名称	単位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値	
成果指標	1	地域にふさわしい公共交通のあり方を見い出す	利用者満足度の向上	%	路線バス満足利用者数÷意見聴取利用者数	100	
	2	効率的なバス運行	1便当たりのバス乗車人数	人	路線バス満足利用者数÷運行便数	9	
	変更履歴						

実	施	状	目	単位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
内	源	訳	事業費等(a)	円	92,413,398	95,008,000				
			国庫支出金	円						
			県支出金	円						
			地方債	円						
			その他特定財源	円			1,000			
一般財源					92,413,398	95,007,000				
活	動	指	標	路線バス利用者数（1日当たり）	目標	人	684	684		
					実績	人	550			
					達成率	%	80.41	-	-	-
					目標	-				
					実績	-				
					達成率	%	-	-	-	-
成	果	指	標	利用者満足度の向上	目標	%	100	100		
					実績	%	78			
					達成率	%	78.00	-	-	-
					目標	人	9	9		
					実績	人	6			
					達成率	%	66.67	-	-	-
備考										

事務事業名	公共交通の確保事業	事業期間	~	年度	係内番号	03
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
中 評 価 課長評価日	当年度開始後、約5ヶ月が経過し、新たに生じた問題点や環境の変化				
	新年度の実施計画・予算要求事項(改革・改善策)				
	翌年度方向性	成果			
		コスト			

項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
事後 評 価 課長評価日	ダイヤや運行日に対する満足度は改善されていない。利用者の要望等を聞く中で、利便性、公平性、経済性を考慮したバス交通を考えていく必要がある。				
	利用者ニーズと利便性向上のためのダイヤ変更等を実施した。利用者が年々減少していく中ではあるが、免許自主返納者など、潜在的な需要は高まってくると考えられる。				
	利用者ニーズを把握し、より効果的な運行を検討していかなければならない。また、国の補助が減少する中、市の財政と福祉施策を含めた将来投資としてのバス交通を総合的に評価し、茅野市に合った公共交通の体系を模索していく必要がある。				
改革・改善の方向性(ACIT)策	拡充 縮小				
改革・改善の方向性(ACIT)策	成果 コスト				
改革・改善の方向性(ACIT)策	改革 成果 コスト の 方 向 性 の 内 容	・バス交通を利用する人の潜在的ニーズはあると考えている。利用者の安全面やバスに愛着を持ってもらうため、老朽化したバスの更新を行うなど、バスを利用しやすい環境を整えていくための施策を検討・実施し、一層の利用者増に向けた取り組みを行っていく。 ・バスの購入費用がなくなることによるコスト減			

作成担当者	小林弘夫				
最終評価責任者	田中裕之				
最終評価年月日	2019年5月17日				